

事務事業事後評価表

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	生涯学習推進事業		所管課【2】	コミュニティ推進課
			評価者(担当者)	西川 慶一郎
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	③人をはぐくむまちづくり		
	主要施策(節)	(2)社会教育の充実		
	施策区分 (市民意識調査結果)	(1)生涯学習の推進		
		<input type="checkbox"/> 【A】重点改善領域 <input type="checkbox"/> 【B】重点維持領域 <input type="checkbox"/> 【C】観察領域 <input checked="" type="checkbox"/> 【D】維持領域		
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input type="checkbox"/> 市長公約 <input type="checkbox"/> 新市建設計画【 年度予定 : 金額 千円】			
	<input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【 社会教育法 】			
	<input checked="" type="checkbox"/> その他の計画【 玉名市教育振興基本計画 】 <input type="checkbox"/> 該当なし			
事業区分 【6】	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設の維持管理事業			
	<input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定事務			
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【			款 10 項 5 目 2 細目 6

《事務事業の目的》

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	生涯学習の立場からも人口構成上高齢者社会の問題からも、高齢者教育の意義は極めて大きい。また、公民館講座については、個人の学習機会を充実することのみならず、その成果を家庭・学校及び地域社会に生かすことが必要である。
対象(誰、何に対して) 【9】	市民
意図(どのような状態にしたいのか) 【10】	子どもから高齢者まで生涯にわたって、家庭・学校・地域社会に還元できるように学習内容を検討し、人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価され生かされる生涯学習社会の実現を図る。

《事務事業の概要》

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】 【 H17 年度から】 【 年度～ 年度まで】
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【
実施方法 【13】	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【
事務事業の具体的内容 【14】	子どもから高齢者まで生涯にわたって学習できるように、多様な学習機会及び集会の場として、各種公民館講座を開催し、2月には生涯学習フェスティバルを開催し、講座の成果を発表していただき、広く市民の方々への公民館講座の啓発を兼ねる。また、各館独自の事業として、子ども相撲大会、集団合宿など地域の特色ある社会教育事業を実施する。
	事務事業を構成する細事業【15】 ① 中央公民館生涯学習事業 ② 岱明町公民館生涯学習事業 ③ 横島町公民館生涯学習事業 ④ 天水町公民館生涯学習事業 ⑤

《事務事業実施に係るコスト》

		H25年度決算	H26年度決算	H27年度決算	H28年度予算	全体計画	
投入コスト	事業費(千円)	国庫支出金					
		県支出金					
		起債					
		受益者負担					
		その他					
		一般財源	3,936	5,041	4,504	4,833	
	【16】 小 計	3,936	5,041	4,504	4,833	0	
	[再掲]臨時・非常勤職員人件費(千円)		0	611	603	653	
	職人件費の費	職員人工数	2.07	1.60	1.55	1.55	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,424	5,761	5,761	5,761	
【17】 小 計		11,228	9,218	8,930	8,930		
合 計		15,164	14,259	13,434	13,763		

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画
① 中央公民館生涯学習事業	各種講座を開催し、子どもから高齢者までの学習の機会を与える。	講座開催回数	回	141	161	154	160
② 岱明町公民館生涯学習事業	各種講座を開催し、子どもから高齢者までの学習の機会を与える。	講座開催回数	回	68	59	75	62
③ 横島町公民館生涯学習事業	各種講座を開催し、子どもから高齢者までの学習の機会を与える。	講座開催回数	回	51	56	55	53
④ 天水町公民館生涯学習事業	各種講座を開催し、子どもから高齢者までの学習の機会を与える。	講座開催回数	回	54	56	56	60
⑤							

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H25目標	H26目標	H27目標	H28目標
			H25実績	H26実績	H27実績	H28実績
1 講座受講者数	年間延べ人数	人	6,380	6,230	5,850	5,800
			4,953	4,742	5,349	
2 公民館事業の参加者数	年間延べ人数	人	1,059	1,166	370	720
			1,041	1,089	1,197	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	公民館は、学習成果の活用が図られる生涯学習社会実現のため、市民の学習意欲を促す必要がある。事業を止めた場合、市民の教養、健康増進、感性を磨く機会を減らすことになる。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	
有効性 (判定) D	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	薬草料理講座や太極柔力球など定員を満たしていない講座があったため、目標値を達成することができなかった。今後も引き続きアンケート等により市民ニーズを把握し、夜間講座や休日講座を開催するとともに、新しい講座にも取り組みたい。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	
効率性 (判定) A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input checked="" type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	新たなニーズの把握に努めるとともに、若い世代が参加しやすい講座の開設について検討していく必要がある。
昨年からの見直し・改善状況【32】	新規講座として、現代的課題講座を高年齢介護とタイアップして実施して実施する予定。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	講座の企画内容を1年を通して見直していきたい。市民の要望等をもとに新規講座を開講しているが、高齢者の参加者が多いという課題がある。今後も引き続き、若い世代が参加しやすいような講座の企画に取り組んでいきたい。	評価責任者 松下 匡
------------------	---	---------------